

令和元年度第2回「北海道史への扉」編集小部会議事録

日 時：令和元年11月6日（水）9:55～10:50

場 所：北海道庁本庁舎5階 道史編さん室

参加者：平野小部会長、奥田委員、小内委員
事務局（靄原）

1 開 会

2 議事

- (1) 「北海道史への扉」執筆要領について
- (2) 「北海道史への扉」第1号の構成について

3 閉 会

1 開 会

○平野小部会長

お忙しいところをありがとうございます。今回は執筆要領と、「北海道史への扉」第1号の構成について、皆さんのご意見をお聞きして固めていきたい。

2 議事

(1) 「北海道史への扉」執筆要領について

○平野小部会長

執筆要領の方は、いろいろご意見をいただきながら事務局にたたき台を作ってもらったもので、事前のメールでは、だいたいよろしいのではということになっていた。改めて今見て、ご意見はありますか。

(意見なし)

では、この内容で決定ということにします。

(2) 「北海道史への扉」第1号の構成について

○平野小部会長

第1号の構成案について、事務局から説明してください。

○事務局

「1 発刊の辞」「2 道史編さんの方針」は、前回の小部会でそれぞれ委員長・編集長にお願いするということになっており、内諾をいただいている。「3 新たな道史に望む」については、桑原編集長からのアドバイスもあり、平野小部会長と相談して5名を考えている。歴史研究団体の代表、前回の道史の編集者、道内自治体史の編集者、道外在住で北海道の歴史にも詳しい研究者、外国人研究者という枠組みで、バランスに配慮した。

○平野小部会長

東海大学の山本教授は近現代史のご専門で、旭川市史や上越市史のご経験があり、道外在住の研究者の立場から、貴重なご意見をいただけるのではないかと思います。外国人研究者については、樺太引揚の研究をしている北大のブルジョナサン エドワード講師のほか、アジアの研究者のご意見も伺うのが望ましいが、すぐに依頼できる方は探しづらく、次回以降で改めて検討したい。

○小内委員

「新たな道史に望む」は第1号だからやるということか。それともずっと続けるのか。

○平野小部会長

初めだからということであって、第1号、第2号くらいまでになる。

○事務局

「4 論文、研究ノート、調査報告、資料紹介、担当分野の構想に関すること」は、分量も5,000字程度と比較的多い部分。前回の小部会で名前が挙がっていた小川委員への依頼はアイヌ史の構想に関することなので、もう一つ研究ノーツ的なものがあった方がよいのではないかと。「5 余録」は、前回の小部会で名前が挙がっていた山崎委員と角委員には、内諾をいただいている。「6 編さん室報告」は、委員会及び各委員

の活動について事務局でまとめるもの。

○平野小部会長

5,000 字程度であれば、論文ではなく研究ノートになる。締め切りまで時間がないので、早めに当たった方がよい。

○奥田委員

ホームページに載せるときのイメージを先に固めた方がよいのではないかと。保存性を考えても、HTML 形式で載せるよりは、プリントアウトすれば冊子と変わらない PDF 形式がよいと思うが。

(一同、同意)

そうなると印刷と同じようなことを考えないといけない。A4 を前提に考えると 1,450 字くらいになるので、1,000 字というのは中途半端な、余白が多いものになってしまう。タテ書き、ヨコ書きも決めなければならない。

○平野小部会長

歴史系の紀要はタテ書きが圧倒的に多いが、英文を載せることもあるかもしれないし、画面で見るとヨコ書きの方が見やすい。基本は 2 段組のヨコ書きでよいのではないかと。

○奥田委員

原稿料はどのくらい出せるのか、依頼するからには条件をはっきりさせなければならない。

○事務局

少ない額ではあるが執筆料は今のところは確保している。こういった冊子に寄稿するときの先生方の相場はどのくらいか。

○平野小部会長

高いものはいくらでもあるが、仕上がり 1 頁で 3,000 円ほどでもよいのではないかと。

○奥田委員

予算が限られているのであれば、長大の論文を書く場合でも、最大 5 頁分くらいまでという制限を付けてはどうか。

○事務局

今のご意見を参考に謝礼単価を検討する。1 頁分の文字数は、事務局でレイアウトを考えた上でお伝えする。

○小内委員

PDF の文章では、どこの雑誌に載っていたものか分からないことがしばしばある。全頁に、誌名や表題が書き込まれるレイアウトにした方がよい。

4 のところでは、産業・経済部会か、教育小部会から執筆者を出した方が、バランスはよい気がする。

○平野小部会長

5,000 字程度でよければ、私が「米軍による人身被害」で書いても。

○小内委員

そうしてもらえるとありがたい。編集後記もあつた方がよいが、これも平野小部会長に書いていただきたい。

○平野小部会長

200字程度で書くことにする。

○奥田委員

産業・経済部会から一人もいないのもどうか。誰かに余録を書いてもらうことにしたいが、余録のイメージはどういうものか。

○事務局

調査雑感やこぼれ話、コラムのようなイメージ。

○奥田委員

青木委員に頼んでみてはどうか。

○小内委員

青木委員なら、時間があまりなくてもこれまでの蓄積で書いてもらえるのではないか。

○平野小部会長

ではそういった構成で依頼をお願いします。スケジュールはどのようになるか。

○事務局

依頼からあまり時間もないので、当初の締め切り1月末から2月に延ばしたいところだが、はじめての刊行でレイアウトにも慣れていないので、予定どおり1月末を原稿締め切りとし、集めた原稿を先生方に見ていただいて3月末を目処に完成、アップする。

○平野小部会長

論文掲載の場合は特に、いつ刊行されたものかをはっきりさせなければならない。刊行日を明示した方がよい。

○事務局

3月25日ということにして、明示する。

○奥田委員

電子書籍の場合、ISSNは取得できないのか。論文を載せるときには、ついていた方がよい。

○事務局

電子かどうかにかかわらず、定期的に刊行するものは取得できるはず。申請します。

3 閉 会

○平野小部会長

ご議論いただきありがとうございます。緊急に何かあれば、メールで連絡する形で進めていきたいと思えます。

(了)